

## 2017年02月05（日）千里キリスト教会 主日礼拝説教

聖書箇所 創世記 20 : 01～18

説教主題 「二度目の誘惑と挫折」

説教者 徳本 篤 師

### 序文)

昭和47年（1972年）に兵庫県加西市の大日寺境内で、背面に十字架が刻まれた地蔵が発見されたことがニュースになりました。この地域ではそれまで知られていなかった、隠れキリシタンの存在が、浮かび上がってきたからです。17世紀に徳川幕府による徹底したキリシタン取り締まりが行われたために、当時キリシタンと呼ばれた人々は、表向きは仏教徒として振る舞うことを強要されました。そんな厳しい状況の中でも、密かに信仰を捨てずに代々伝えていった人々がいたことをあかしするものです。

同じ頃17世紀のスイスやオランダにおいて、聖書のことばから確信する「信者の洗礼」を実行したために、カトリック教会から厳しい迫害を受け、国外に追放されたメノナイトの人々の歴史と 생각이重なります。

### 本文)

神はエゼキエル 16 : 6 で、「生きよ」と命じておられます。厳しい状況の中で必死に「生きる」道を模索したアブラハムの体験を通して、アブラハムの子孫である私たちも、「生きる」道を学ぶ必要があります。

#### 1. アブラハムが生涯抱え続けていた危険な状況

すでに紀元前のオリエント社会においては、夫のある女性を妻にすることは姦淫の罪として世間から厳しい裁きを受けることが定まっていました。モーセの律法では姦淫の罪は死罪に定められています。

20章9節で、アブラハムに対してアビメレクが「私と私の王国とに、こんな大きな罪をもたらすとは。」と、抗議しているように、そのことが重罪にあたるものだったことを明らかにしています。

ところが、この掟には抜け穴がありました。もしその女性が未亡人となれば、正式に妻として迎え入れることが許されたのです。ダビデがバテシバとの不倫を揉み消すために、彼女の夫のウリヤを殺害させたのもそのためでした。（2サムエル 11章）そのように、人妻の強奪を正当化するために、夫殺害が密かに行われていたことを知ると、アブラハムの悩みが如何に根深いものであったかが分かってきます。

#### 2. アブラハムには「嘘」をつく以外に助かる道はなかったのか

もし、自分の力で自分に身を守ることができる相手だったなら、「嘘」をつく必要はありません。しかし、相手がその土地の権力者であるような場合には、ウリヤの時と同じように、自分の力ではその危険から逃れる道はなかったと、考えるのが常識です。

創世記 12章に続く「二度目の嘘」は、神の奇跡が起きることを初めから期待し、それを前提にして自分の行動を決めることは現実的でなかったことを示しています。したがって、信仰を守り抜くために殉教することを他人に勧めたり、それを強要することはできません。強要してもいけません。もし、アブラハムのような窮地に立たされた場合、「嘘」をついてでも「生きる」道を選ぶことができると考えてよいでしょう。殉教を逃れるために隠れキリシタンとなった人々のことを風化させてはならないと思います。そして、アブラハムが「嘘」をついてまで「生きる」道を選んだことを心に留めておかなければなりません。

### 3. 90歳にしてサラは夫アブラハムから奪い取りたいほど魅力的な女性だったのか

創世記 12:11 と 14 で、「見目麗しい女」「その女が非常に美しいのを見た」と書かれています。エジプト人のパロも、カナン人のアビメレクもハム系の人々で、肌色が黒い人種でした。カルデア人のサラはセム系のため、肌色が白い人種でした。そればかりかサラの容姿と顔立ちが非常に美しいことから、周囲の人々には特別目立つ存在だったようです。1ペテロ 3:5～6 では、サラには主を恐れる女性としての気品と敬虔さがありました。そのように神と人々に愛されたサラの姿は、年齢を重ねてもなお、すべての男性が自分の傍にいて欲しいと思うほど理想的な女性だったかもしれません。

#### 洞察) アブラハムが経験したすべてのことは目に見えない神のご計画だったのか

創世記 21:22 でアビメレクはアブラハムについて次のように証言しています。「あなたが何をしても、神はあなたとともにおられる」 そのことばの意味は創世記の記録を辿ってみるとよくわかります。

創世記 11:31 故郷ウルを出た時のアブラハムは父と妻サラと甥のロトだけだった。

創世記 12:16 アブラハムは羊の群れ、牛の群れ、ろば、男女の奴隷、雌ろば、らくだを所有する。

創世記 13:02 アブラハムは家畜と銀と金とに非常に富んでいた。そのために甥のロトと別れた。

創世記 14:14 アブラハムはロト家族の救出のため、しもべ三百十八人とともに追跡した。

創世記 20:14 アビメレクは、羊の群れと牛の群れと男女の奴隷たちをアブラハムに与えた。

創世記 20:15 アビメレクはアブラハムに自分の領地内で自由に住むことを許した。

創世記 20:16 アビメレクはアブラハムに銀千枚を与えと言った。

創世記 21:22 アビメレクが「あなたが何をしても、神はあなたとともにおられる。」と言った。

#### 適用)

ヘブル書 11 章で、「設計し建設されたのは神である。」と語られ、詩篇 118 篇で、「私たちの目には不思議なことである。」と書かれています。アブラハム本人には見えていないところで、神がデザインされた不思議な計画が着々と進められていたことを思うと、アブラハムが経験したすべてのことは、「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」とパウロがローマ 8 : 28 で語っているように、すべてのことが神の御手の中で行われていたこととなります。

#### 決断と応答)

では、今日の聖書箇所から何を学ぶべきでしょうか。どんなことをしてでも「生きる」ことを最優先して選ぶことです。神の祝福とは、私たちが成功すること、成長すること、立派な人になることだけに限定されるものではありません。泣くこと、叫ぶこと、つまづくこと、悩むこと、あるいは失敗することさえ、目には見えない神の摂理のデザインのうちで計画が進められているのです。私たちの経験していることがどのような益になったのかを知るのは「今」ではありません。それは「将来の日」のために備えられているのです。

あなたがアブラハムの子孫であることを自認されているなら、アブラハムと同じ道を歩んでいきましょう。